

●たかやま5つのゼロ宣言の表明

2050年に向けた「たかやま5つのゼロ宣言」

近年、地球温暖化に起因すると考えられる気候変動、異常気象による自然災害により、世界各国で大きな被害が発生し、本村も例外ではなくなってきました。
 国際社会では地球温暖化対策に関する枠組みとしてパリ協定が締結され、日本も目標を定めて温室効果ガスの削減に取り組んでいる。こうした状況を踏まえ、本村でも脱炭素社会の実現のため、環境省で推し進める2050年ゼロカーボンを目指すことを表明する。
 併せて、災害時のエネルギー確保、プラスチックごみ、食品ロスといった課題の解決と、「一人一人が次世代を思い100年先も住みたい持続可能な村に」の実現を目指し、群馬県の5つのゼロ宣言と連携しながら、『2050年に向けた「たかやま5つのゼロ宣言」』をする。



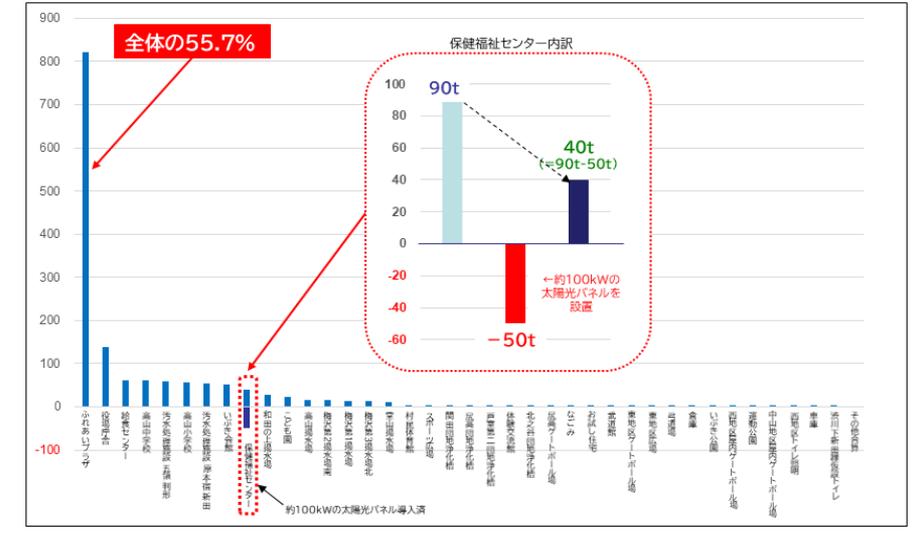
令和4年1月31日

高山村長 後藤 幸三

- 宣言1 自然災害による死者「ゼロ」**
 村の強靱化を図るとともに、村民の防災意識を高め自然災害による死者をゼロにします。
 ○ハザードマップ等による防災情報の強化
 ○避難所の運営・管理体制の充実・強化
- 宣言2 温室効果ガス排出量「ゼロ」**
 水資源・森林資源の有効活用を図り、再生可能エネルギー資源を最大限活用した温室効果ガスの排出量を実質ゼロにします。
 ○森林整備の推進による循環型社会の構築
 ○再生可能エネルギーの促進
 ○省エネ、節電対策のさらなる推進
- 宣言3 災害時の停電「ゼロ」**
 エネルギーの自立・分散化により、災害時にも電力供給の継続を目指します。
 ○各家庭、事業所への蓄電池の整備
- 宣言4 プラスチックごみ「ゼロ」**
 環境中に排出されるプラスチックごみを極力なくしていきます。
 ○資源としてのさらなる回収強化の推進
 ○自然素材による新たな代替素材への転換促進
- 宣言5 食品ロス「ゼロ」**
 「MOTTAINAI」(もったいない)の心で食品ロスをなくしていきます。
 ○飲食店等の食品ロスゼロの推進
 ○地産地消による食品ロスゼロの展開

●公共施設のCO2排出量の現状

道の駅(ふれあいプラザ)の年間CO2排出量が、**圧倒的に多い**状態が続いています。



●アンケート調査結果(令和5年実施)

「村の中心地に必要なものは」の設問で、上位回答はスーパー・日用雑貨、役場を望む声が多かった

